



## 蝶～優雅に舞い踊れ～



体育祭のテーマです。9月に入ってから、体育の時間にダンスや組立体操の練習を積み重ねてきましたが、先週火曜日からは学級対抗種目の練習のため、ほとんどの学級が7時30分から早朝練習を行っています。朝早くから生徒と先生と一緒に練習する風景はとても微笑ましく、学校も活気にあふれています。各家庭においても、いつもより早く朝食の準備をするなど、ご協力いただいていることに感謝いたしております。

さて、練習も残すところ今週一週間となりました。練習を始めたころは、なかなかうまく跳べなかった長縄跳びもだんだんとうまくなってきています。しかし、順調に上達してきた技も、ある時期がくると、思うように伸びなくなることがあります。努力が足りないのか、それともこれが限界なのかと思い悩み、やる気まで無くなってしまふこともあるかもしれません。(勉強でもおなじようなことがあるでしょう)

でも、再び一気に伸びるときがやってきます。努力は決して裏切りません。“さなぎ”ももがいて“蝶”になっていくのです。優雅に舞い踊るためにも、今が一番大切なのです。



### 努力をどう考えるか

子どもの「努力のメカニズム」を明らかにしておく必要があると思います。子どもたちができなかったことができるようになるときは、何もしないでいて「あっ」とひらめいてできるようになるわけではないのです。できない、できない、できない・・・が続いていて、あるとき急にできるようになるのです。これはひらめきが訪れるのではなく、できなかった間にずっと蓄えられた見えない力があるわけです。努力することによって見えない力が蓄積されて、あるときそれがあふれ出す。そのときに、できるようになると考えるとわかりやすい。できなくてわからなくて、努力しているときはつらいですね。でも、この努力のメカニズムがわかっているならば、子どもたちはつらくとも我慢して取り組むことができます。できなくてあきらめてしまう習慣を子どもの中に作ってはいけないのです。できない状態が続いているけど、「努力している間、自分の中にたまっている見えない力があるのだ、それが限界点までたまると、できるようになるのだ」ということを、子どもたちに徹底させる必要があります。

※「子どもも親も幸せになれる校長先生の言葉」生活文化編集部編(集英社2008年発行)から抜粋

### 保護者から見た詫間中学校は・・・

1学期の懇談会時にお願ひしたアンケートの結果です。(詳細は裏面に掲載しています)

教職員についてみると、保護者への対応や部活動の指導などは80%以上の方が肯定的にとらえています。学習指導については、他の項目より低くなっています。これは、子どもの様子からみても同じ傾向で、「部活動を楽しんでいる」「友達と仲良く楽しそうである」「服装や髪型の決まりを守っている」などは90%を超えています。また、「勉強がわかるようになってきた」と感じている方は、約60%にとどまっています。また、総合的にみると、「中学生らしくて好感が持てる」「子どもを安心して預けられる学校である」と肯定的に回答された方は85%、詫間中学校を5段階で評価すると平均3.5という結果になりました。

この結果を真摯に受け止め、2学期以降も全教職員一丸となって子どもたちのために全力を尽くします。

## 保護者による評価（1学期）

